

わたしのまちの健康プロフィール(豊肥版)

1 管内の概要

【作成元】 2024年4月

大分県豊肥保健所

〒879-7131 大分県豊後大野市三重町市場934番地2

TEL:0974-22-0162/FAX 0974-22-7580

e-mail:a12086@pref.oita.lg.jp

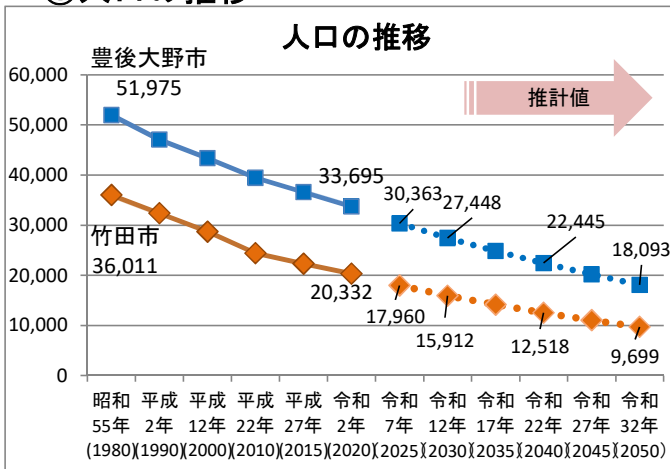


| | |
|------------|---------------------------------|
| 人口 | 管内 50,625 人 (対前年1,222人減) |
| | 竹田市 18,845 人 (△2.67%) |
| | 豊後大野市 31,780 人 (△2.17%) |
| 世帯数 | 管内 21,962 世帯 (対前年249世帯減) |
| | 竹田市 8,438 世帯 |
| | 豊後大野市 13,524 世帯 |
| 高齢化 | 管内 47.5 % (対前年0.5ポイント増) |
| | 竹田市 50.3 % |
| | 豊後大野市 45.8 % |
| | 大分県 34.2 % |

資料:大分県統計調査課「推計人口」(令和5年10月1日現在)

(1) 人口

①人口の推移



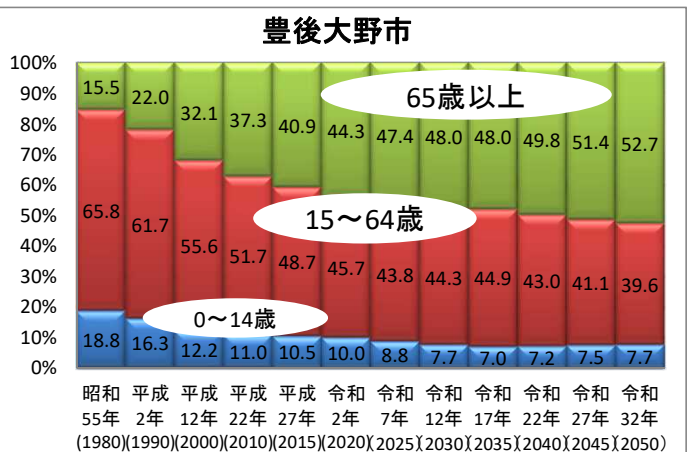
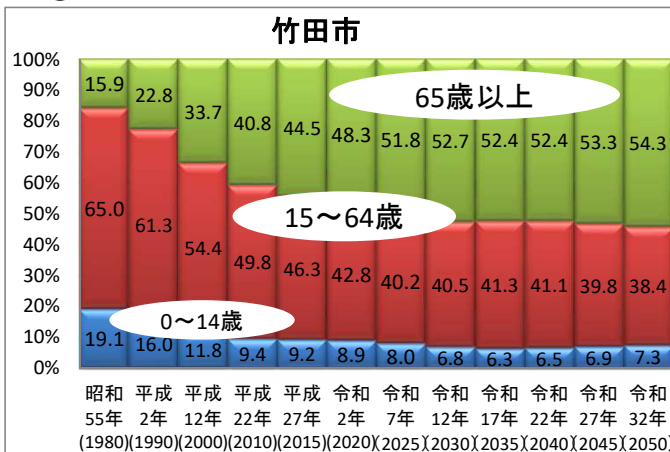
人口は年々減少しており、今後も減少すると予想されています。令和5年の人口減少率は、竹田市が2.67%減(県内ワースト4位)、豊後大野市は2.17%減(県内同8位)でした。

また、豊肥地域は県内でも高齢化率の高い地域であり、令和5年の高齢化率は、竹田市50.3%(県内2位)、豊後大野市45.8%(県内5位)でした。

15歳~64歳の世代は年々減少しており、高齢者を地域全体で支える仕組みづくりが必要となっています。



②年齢3区分別人口割合の推移



資料:1980年~2020年 総務省統計局「国勢調査」

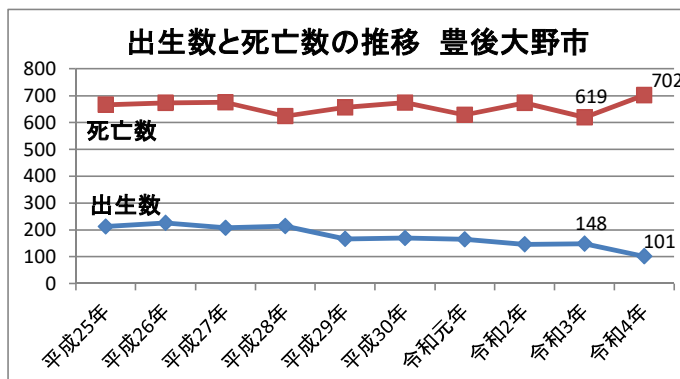
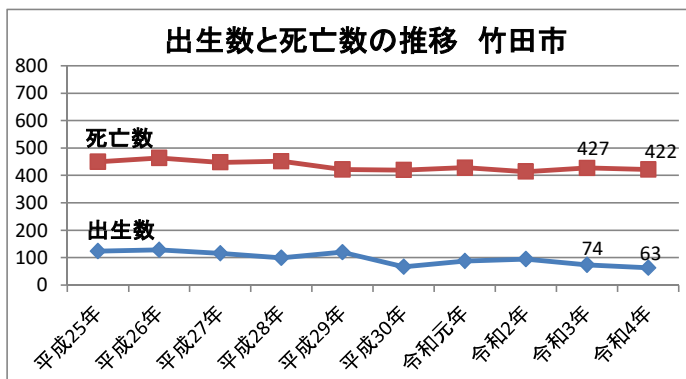
2020年~2050年 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」令和5年推計

2 人口動態

(1) 出生と死亡の状況

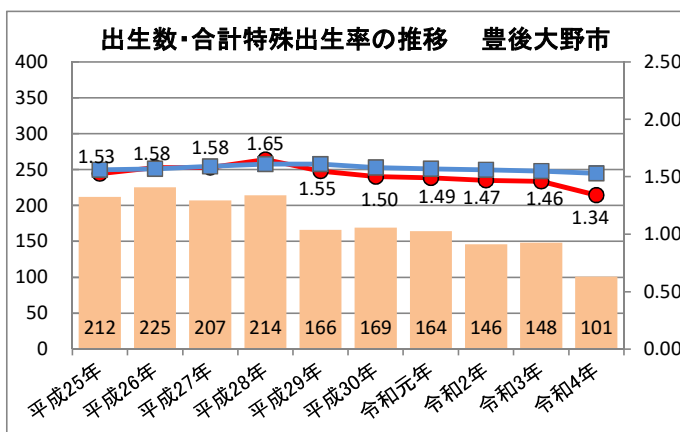
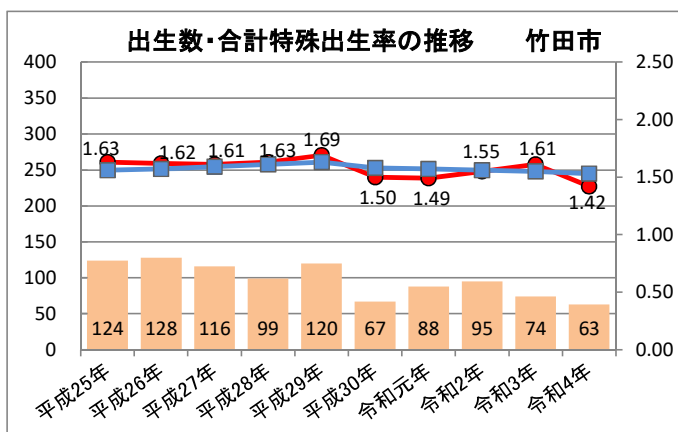
| 令和4年 | 生まれる赤ちゃん【出生】 | | | 亡くなる人【死亡】 | | |
|-------|--------------|---------------|-----------------------------|--------------|-------------|---------------|
| | 出生数 (実数) | 出生率 (人口千対) | (再掲) 出生数 2,500g 未満 | 合計特殊 出生率※ | 死亡数 (実数) | 死亡率 (人口千対) |
| 大分県 | 6,798 | 6.2 | 594 | 1.53 | 16,266 | 14.9 |
| 竹田市 | 63 | 3.3 | 4 | 1.42 | 422 | 22.2 |
| 豊後大野市 | 101 | 3.1 | 6 | 1.34 | 702 | 21.8 |

資料：厚生労働省「人口動態統計」
合計特殊出生率は県福祉保健企画課調べ（平成30年～令和4年の平均値）



出生数をみると、竹田市、豊後大野市ともに前年に比べて減少しています。
竹田市、豊後大野市ともに、県に比べ、人口千人あたりの出生率が低く、死亡率が高くなっています。
また、死亡数が出生数を上回り、自然減の状況が続いています。

(2) 出生数と合計特殊出生率の推移



■ 出生数 ● 合計特殊出生率【市】 ■ 合計特殊出生率【県】

合計特殊出生率は、1人の女性が一生の間に生む子どもの数をあらわす指標で、人口を維持するためには2.07以上が必要とされています。

管内の合計特殊出生率は県よりも概ね高い値で推移していましたが、平成30年頃から県よりも低い値で推移しています。令和4年の合計特殊出生率は、竹田市1.42（県内12位）、豊後大野市1.34（県内17位）であり、近年横ばいから減少の状況が続いています。



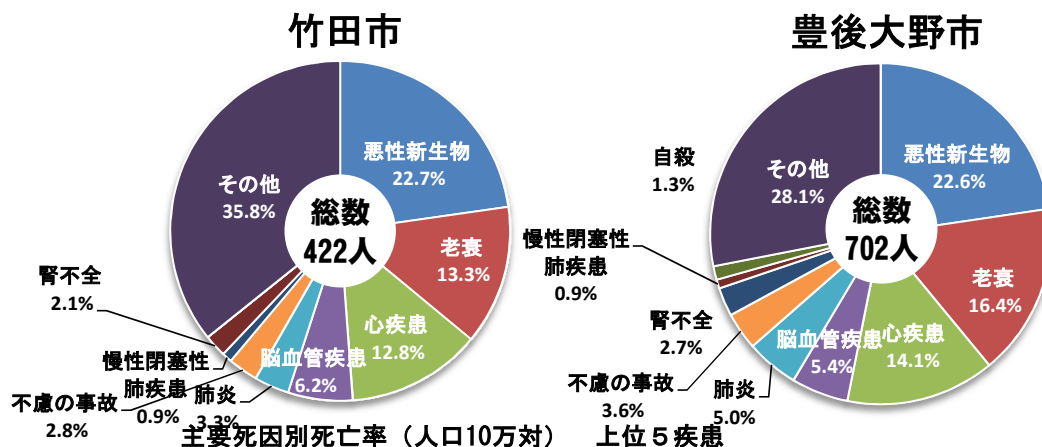
(3) 主要死因別死亡数・死亡率(人口10万対)

令和4年

| 死因 | 大分県 | 竹田市 | | 豊後大野市 | |
|----------|--------|-----|---------|-------|---------|
| | 率 | 実数 | 率 | 実数 | 率 |
| 死亡総数・死亡率 | 1489.6 | 422 | 2,216.6 | 702 | 2,180.0 |
| 悪性新生物 | 337.1 | 96 | 504.3 | 159 | 493.8 |
| 心疾患 | 214.4 | 54 | 283.6 | 99 | 307.4 |
| 脳血管疾患 | 107.9 | 26 | 136.6 | 38 | 118.0 |
| 肺炎 | 76.0 | 14 | 73.5 | 35 | 108.7 |
| 腎不全 | 35.5 | 9 | 47.3 | 19 | 59.0 |
| 老衰 | 150.3 | 56 | 294.1 | 115 | 357.1 |
| 不慮の事故 | 48.7 | 12 | 63.0 | 25 | 77.6 |
| 慢性閉塞性肺疾患 | 18.6 | 4 | 21.0 | 6 | 18.6 |
| 自殺 | 15.5 | - | - | 9 | 27.9 |

資料：厚生労働省「人口動態統計」

(4) 主要死因別死亡割合(令和4年)



主要死因別死亡率(人口10万対) 上位5疾患

| 竹田市 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------|-------|-----|-----|-------|----|
| 令和4年 | 悪性新生物 | 老衰 | 心疾患 | 脳血管疾患 | 肺炎 |
| 令和3年 | 悪性新生物 | 心疾患 | 老衰 | 脳血管疾患 | 肺炎 |
| 令和2年 | 悪性新生物 | 心疾患 | 老衰 | 脳血管疾患 | 肺炎 |
| 令和元年 | 悪性新生物 | 心疾患 | 老衰 | 脳血管疾患 | 肺炎 |

| 豊後大野市 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-------|-------|-----|-----|-------|----|
| 令和4年 | 悪性新生物 | 老衰 | 心疾患 | 脳血管疾患 | 肺炎 |
| 令和3年 | 悪性新生物 | 老衰 | 心疾患 | 脳血管疾患 | 肺炎 |
| 令和2年 | 悪性新生物 | 心疾患 | 老衰 | 脳血管疾患 | 肺炎 |
| 令和元年 | 悪性新生物 | 老衰 | 心疾患 | 脳血管疾患 | 肺炎 |

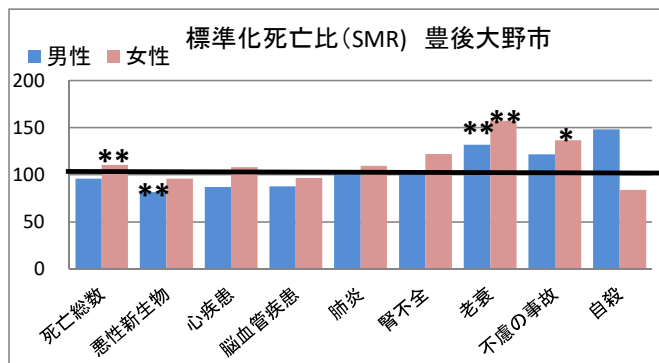
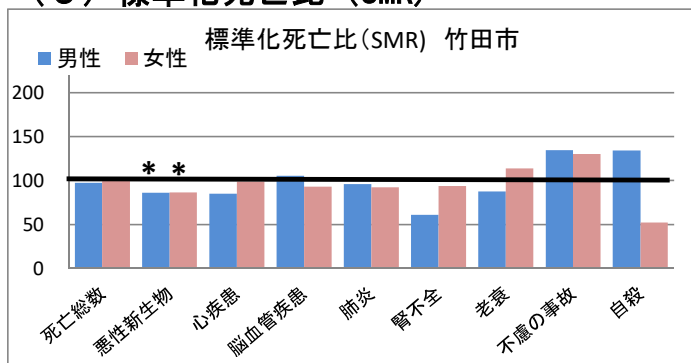
注) 表中の 色塗り の部分は生活習慣病に起因するとされる疾患です。

管内の死因別死亡数を見ると、1位は両市とも悪性新生物、2位は老衰、3位は心疾患となっています。全国的にも、悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患、肺炎の順で多くなっています。(令和4年人口動態統計)

死亡率は年齢構成によって大きな違いがあることから、地域毎に比較する場合は、年齢構成の差を取り除いた「標準化死亡比(SMR)」を用います。全国を100として、100より大きい時は、全国より高い(多い)ということになります。竹田市・豊後大野市とも、男性の自殺、男女の不慮の事故が高くなっています。



(5) 標準化死亡比(SMR)



注) *は5%の危険率、**は1%の危険率で有意に期待死亡率と差がある。
資料：厚生労働省「人口動態調査」の調査票情報を利用し大分県健康指標計算システムで集計(H30~R4年平均)

3 平均寿命とお達者年齢

～平均寿命と健康寿命について～

「平均寿命」は、0歳の子どもが何年生きられるかを示したものであり、国が5年毎に都道府県の数値を公表しています。市町村の平均寿命も5年毎に国が算出していますが、大分県では独自に算出（※1）し、毎年公表（※2）しています。

健康で過ごせる期間を示す「健康寿命」は、国民生活基礎調査の結果を基に、国が「健康上の問題で日常生活に制限のない期間」を算出したもので、3年に1回全国値と都道府県の値が公表されます。平均寿命と健康寿命の差をできるだけ短くすることで、健康に寿命を全うすることができます。

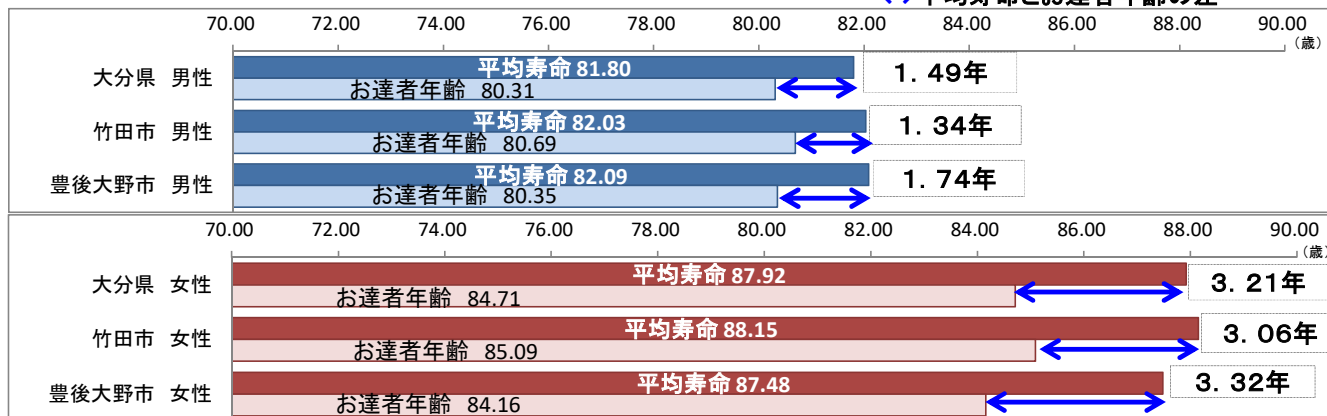
なお、市町村は人口規模が小さく、国と同様の調査による「健康寿命」の算出は困難なため、類する指標として、大分県が「お達者年齢」（※3）を毎年公表（※2）しています。

- ※1 「10月1日現在人口推計、人口動態統計」から算出
- ※2 人口規模が小さく単年度では精度が低くなるため、5年間平均値を使用
- ※3 「要介護2以上に認定を受けていない方」を健康として定義



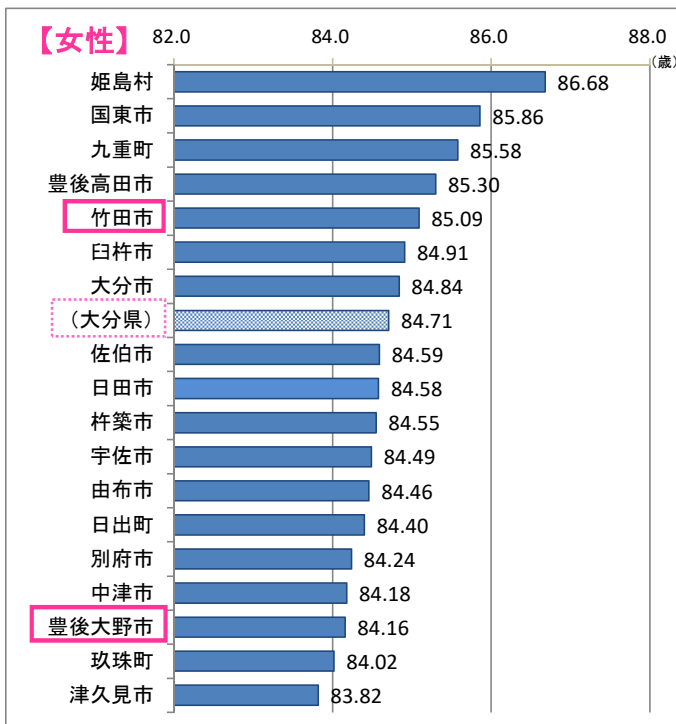
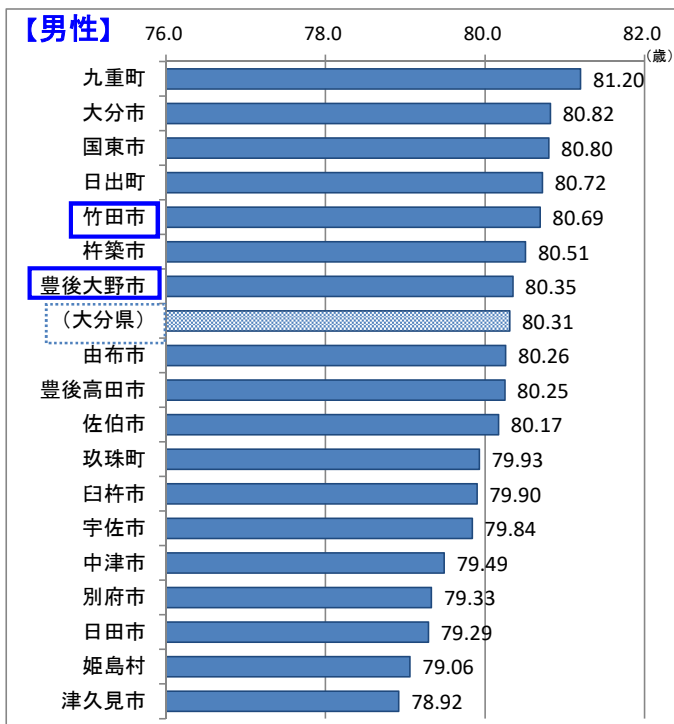
(1) 管内各市の平均寿命とお達者年齢

↔ 平均寿命とお達者年齢の差



資料: 大分県福祉保健企画課調べ (H30～R4年平均)

(2) お達者年齢 市町村ランキング



資料: 大分県福祉保健企画課調べ (H30～R4年平均)

管内の「平均寿命とお達者年齢の差」は、竹田市が男性1.34歳、女性3.06歳、豊後大野市が男性1.74歳、女性3.32歳です。県内の市町村と比較すると、竹田市のお達者年齢は、高い方から男女とも5位、豊後大野市は高い方から男性が7位、女性が16位です。「平均寿命とお達者年齢の差」を短くするためには、若い頃からの健康的な生活習慣と、高齢者の介護予防が重要です。「健康寿命日本一」を目指し、健康増進に取り組みましょう。

